

春季展 2020年

長野県の考古学

いのちをつなぐ技と交流



氷遺跡 氷式土器



中村中平遺跡 土製耳飾り(飯田市教育委員会蔵)



栗林遺跡 クルミ、トチ、水さらし場状遺構

2020年3月14日[土]—6月14日[日]

休館日：毎週月曜日、4月30日[木]、5月7日[木]（5月4日[月・祝]は開館）

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般300円(200円)、大学生150円(100円)、

高校生以下、障害者手帳などの交付をうけている方と同伴者は無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金

主催：長野県立歴史館 共催：長野県埋蔵文化財センター

後援：信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、読売新聞長野支局、毎日新聞長野支局、産経新聞長野支局、中日新聞社、長野市民新聞社、市民タイムス、市民新聞グループ(7紙)、長野日报社、南信州新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、(一社)長野県ケーブルテレビ協議会、FM長野、FMぜんこうじ、屋代有線放送電話農業協同組合、(公財)八十二文化財団

長野県立歴史館

Nagano Prefectural Museum of History

千曲市大字屋代 260-6 (科野の里歴史公園内)

Tel.026-274-2000(代表) 026-274-3992(考古資料課)

<https://www.npmh.net/>



長野県の 考古学

春季展 2020年

縄 文から弥生へ一時代の変わり目でもある縄文時代後・晩期(約4,500～2,500年前)。長野県では生業活動の変動を語る石器や加工施設、広域な情報網があったことを示す土器や装身具が発見されています。環境変化などの影響が生じていた時代のなか、人びとが食料獲得・加工の技を向上させ、他地域との結びつきを深めていった姿を、考古資料から探り展示します。さらに、昨年の「長野県の考古学」展に引き続き、平成30年に長野県宝に指定された「信州の特色ある縄文土器」、長野県埋蔵文化財センターの最新の調査研究成果を紹介します。

〈 主な展示遺跡 〉

テーマ

1

いのちをつなぐ技と交流 (縄文時代後・晩期:約4,500～2,500年前)

【展示する主な遺跡】栗林遺跡(中野市)、北村遺跡(安曇野市)、中村中平遺跡(飯田市)、エリ穴遺跡(松本市)、一津遺跡(大町市)、氷遺跡(小諸市)、大日ノ木遺跡(上田市)、中島A遺跡(岡谷市)ほか



中野市栗林遺跡の水さらし場状遺構(当館蔵)



安曇野市北村遺跡の縄文時代後期の土器群(当館蔵)



大町市一津遺跡のヒスイ関連資料(大町市教育委員会蔵)

テーマ

2

長野県埋蔵文化財センター調査遺跡

【展示する主な遺跡】沢尻東原遺跡(辰野町;縄文時代中期)、南大原遺跡(中野市;弥生時代中期)



蛇体把手土器(辰野町 沢尻東原遺跡)



左:環状土坑列、右:竪穴建物跡から出土した土器(中野市 南大原遺跡)



(写真提供:長野県埋蔵文化財センター)

テーマ

3

長野県宝指定記念「信州の特色ある縄文土器」(縄文時代中期:約5,400～4,500年前)

【展示する主な遺跡】月見松遺跡・石仏遺跡(伊那市)、中越2遺跡(宮田村)、御射山遺跡・上の林遺跡(箕輪町)ほか



長野県宝
伊那市月見松遺跡出土
「顔面把手付深鉢形土器」
(伊那市教育委員会蔵)



長野県宝
箕輪町上の林遺跡出土
「抽象絵文有孔鏝付土器」
(箕輪町教育委員会蔵)



長野県宝
宮田村中越2遺跡出土
「抽象絵文有孔鏝付土器」
(宮田村教育委員会蔵)

関連イベント

■ 講演会「縄文晩期から弥生への社会変化(仮)」

講師/石川日出志氏(明治大学文学部教授・明治大学黒耀石研究センター所長)

日時/令和2(2020)年5月16日(土)午後1時30分～3時

※聴講には、常設展観覧料が必要です。企画展もご覧になる場合は、共通券をお買い求めください。

長野県立歴史館

Nagano Prefectural Museum of History

千曲市大字屋代260-6(科野の里歴史公園内)

Tel.026-274-2000(代表)

Tel.026-274-3992(考古資料課)

<https://www.npmh.net/>